

# 高校生がもてなすホテル



向きを確認しながらグラスをテーブルに並べる白馬  
高校国際観光科の生徒（17日、白馬村のホテルで）

## 来月 宿借り切り1泊2日

**白馬**  
観光分野で活躍できる人材を育成する白馬高校国際観光科（白馬村）の生徒が、地元の温泉宿を借り切って実際に宿泊客をもてなす実習「高校生ホテル」を初め

て行う。1泊2日にわたってフロント業務や客室係、地元の観光案内までを担当。11月27日の「開業」に向けて客への対応を学ぶなど、準備も着々と進んでいる。

実習は、2016年度に同科が設置された当初から計画されていた。今回は同科2期生となる2年生32人が参加する予定だ。生徒は今年1月から、国の統計データを基に客の好みを分析して宿泊プランを企画。インターネットの旅行サイトで販売している。今回はそのノウハウを生かして、季節に合った新プランを提供する。宿泊客は、県教育委員会などを通じて教育関係者を対象に募集するとい

う。  
外国人観光客にも人気

の村内の温泉宿「しろうま荘」で、当日は約30人を出迎える。生徒は受け付けや配膳、客室の布団敷き、白馬ジャンプ競技場をはじめとする観光名所への案内などに従事する。しろうま荘のスタッフも立ち会って、調理を除くすべての業務を原則、生徒だけで担当する。

本番まで約40日と迫った  
17日は、村内の白馬東急ホテルで接客の基本やテーブルセッティングの方法を学んだ。  
吉野良平総支配人から身だしなみやあいさつの大切さなどについて講義を受け、円卓に皿やナイフ、フォークを並べるテーブルセッティングに挑戦。同ホテルのレストランに勤務するスタッフから「グラス

の向きをよく見て」「上座、下座を意識して配置しましょう」などとアドバイスを受けながら食器を並べた。  
大阪市出身で、当日は食事のサービスを担当する大橋海斗さん(17)は「プロから話を聞くことができて参考になった。当日はお客様の話をよく聞く姿勢を心がけたい」と話した。